

平成27年度こんにゃく原料需給実績

(単位:精粉20kg/袋)

項目 年度(27.11~28.10)	需 要 量 (消費量)	供 給 量					期 末 在 荷 量
		期初在荷量	国内生産量		輸 入 量	供 給 量 合 計	
			生 産 量	春 切 り 量			
計算式	a=f-g	b:前年実績	c:実績	d:前年並	e:実績	f=b+c+d+e	g:注2参照
原料(国内・輸入)数量実績 (前年度実績)	280,300 286,100	142,000 149,000	263,600 247,500	5,000 5,000	16,600 26,800	427,200 428,200	146,900 142,000
製品 輸入数量実績 (前年度実績)	28,100 32,200	0 0	0 0	0 0	28,100 32,200	28,100 32,200	0 0
合計 (前年度実績)	308,400 318,300	142,000 149,000	263,600 247,500	5,000 5,000	44,700 58,900	455,300 460,300	146,900 142,000
前年比(%)	96.9%	95.3%	106.5%	100.0%	75.9%	98.9%	103.5%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、②、③及び⑥は平成26年度こんにゃく原料需給実績から変更している。また、生産量、在荷量に関しては平成27年度からの計算方法の変更に伴い21年度まで遡って再計算しているため、平成26年以降のこんにゃく原料需給実績とそれ以前の発表数値は連続しない。

- ①原料需要量は、供給量から期末在荷量を差し引いた、280,300袋とした。
- ②期初在荷量は、平成27年度在荷量調査を基に⑥と同様の方法で算出した26年度の期末在荷量142,000袋とした。
- ③生産量は、平成27年産生産量(61,300トン)から算出(61,300×1,000×歩留(8.599%)÷20kg=263,559)し、263,600袋とした。
- ④春切り量は、平成27年度需給計画とほぼ同じであったので、5,000袋とした。
- ⑤原料輸入量は、1次関税枠(73.6トン)及び2次関税枠(257.7トン)の輸入量(331.3トン)から算出(331.3×1,000÷20kg=16,565袋)し、16,600袋とした。
- ⑥期末在荷量は、平成28年度在荷量調査を基に、全こん連調査結果の合計期末在荷量に対する合計買入量の比率(43.0%)を全国製造業者の期末在荷率とみなし、これに全国製造業者の買入量(国内生産量(春切り量を含む)+原料輸入量+全農・全原協の在荷増減量=289,845袋)を乗じて算出した全国製造業者期末在荷量123,105袋に、全農及び全原協の調査結果の期末在荷量合計23,761袋を加えて146,900袋とした。
- ⑦製品輸入数量は、輸入量(18,562トン)から、精粉換算(製品倍率33倍)で算出(18,562×1,000÷33÷20kg=28,124袋)し、28,100袋とした。